

古江台中学校ブロック 夏季合同研修会

7月26日(火) 13:30~17:00 古江台小学校にて、古江台中学校ブロック夏季合同研修会を開催しました。3校2園の教職員70名が参加し、講演会・分科会を通して、ともに学び合いました。

【講演会】 「島本町における小中一貫教育の推進」

講師 島本町教育委員会 教育推進課参事兼指導主事 畑 克延 様

島本町における教育推進事業等の経過や小中一貫教育の具体的な取組として、授業を軸にした取組、児童・生徒交流などについて、お話しいただきました。

平成18・19年度に内閣府「英語特区」小中連携教育実践事業で国の研究指定を受けたことを始めに、平成20年度より島本町小中一貫教育推進協議会を設置して本格的に小中一貫教育の取組が始まったことや、校区編成の関係から1中学校ブロック単位というのではなく、中学校2校・小学校4校の全町で取組が進められたことをお話しされました。



授業を軸にした取組として、相互授業参観、各校研修会の相互乗り入れ、校種を超えて授業をする「いきいきスクール」、小学校児童が中学校で授業を受ける「乗り込みスクール」「つなぎングスクール」等、取組の変遷をそのねらいやどのような効果・影響があったかを含めて説明されました。

また、代表授業を全員で授業研究する小中合同授業研究会や組織的に提案授業を行う教科プロジェクト、教科プロジェクトと町教研を統一し教科毎に9年間を見通したカリキュラムを作成する等、小中一貫教育推進の裾野を広げ、教育内容、指導の連続性を追求されていることがわかりました。

児童・生徒交流では、児童の不安感解消と期待感の高揚をねらい、小学校児童が中学校の授業を見学したり、夏休みを利用し中学校のクラブを体験する活動をしていることや、保育園・幼稚園の年長児が小学校を訪問し、授業を受けたり、学校体験したりする交流を行っていることも紹介されました。

教育委員会組織を改編し、学校教育自己診断で小中一貫教育についてのアンケートをとり、振り返ることで、児童、生徒、保護者、教職員が受け止められるようにしていることなど、小中一貫教育を推進するために大切にしていることをアンケート結果を踏まえて教えていただきました。

島本町の今後の展開として、中学生に英検3級以上の力を身につけさせることを目標に英語教育推進事業を軸に進めることを紹介されました。

最後に『小中一貫教育はその視点を持って子どもたちの成長を見ていくことなので、形にとらわれる必要はない』『いろいろな勉強の機会を自らつかんでほしい』の言葉で締められました。

多くの資料、アンケート結果等を示しながらお話しいただきました。教職員の“負担感”も考慮しながら、PDCAサイクルにより“やりがい”のある取組、町全体の取組へと展開されたことがよくわかりました。

【分科会】 教科・領域別および事務連携、養護・栄養教諭の全10分科会に分かれ、

- テーマ
- ①授業で工夫しているところや課題となるところ
 - ②子どもの発達段階に応じた「つきたい力」と現状
 - ③情報交換(児童・生徒の現状と課題、授業、テスト、評価・通知表など)
- ＜事務連携は、職務における連携、養護・栄養教諭は保健指導・食育＞
などについて、意見交流を行いました。



1 国語 2 算数・数学 3 社会 4 理科 5 英語



6 体育 7 図工・美術・音楽・技家 8 事務連携 9 支援 10 養護・栄養教諭

各分科会とも充実した話し合いが行われました。分科会記録は、年度末に配付予定の「古江台中学校区幼保小中連携教育研究報告集」に掲載します。

☆☆

古中ブロック公開研究授業 6月24日(金)6限目(14:30~15:15)

津雲台小学校 5年2組 外国語活動 「I like apples.」 授業者 河本 美稀 教諭
講師 高槻市立大冠小学校 引山 大士 様

古中ブロックのたくさんの先生方が参加してくださいました。津雲台小学校では今年度から外国語活動を取組の中心としています。

授業は、キーワードゲームで単語を確認した後、「Do you like ~」の言い方を勉強しました。グループで、質問しながら確認していきました。最後に、インタビュービンゴを行いました。クラスの友だちにインタビューしながら、「Yes」と答えた単語をビンゴさせていきました。児童はビンゴを完成させるためにたくさんの友だちとインタビューをしていました。どの活動も児童の興味を持たせるものだったので、積極的に活動に参加することができていました。

その後の研究会では、幼・小・中の先生方が6つのグループに分かれ、授業についての討議や表現力の育成に伴った各校の取組について話し合いました。限られた時間の中でたくさんのお話ができ、有意義な時間となりました。

講師の引山先生からは、外国語活動の授業づくりや外国語教育の今後、校区連携についてお話ししていただきました。今までの大学入試では、読むことが中心でしたが、これからは「読む」「話す」「聞く」「書く」ことが同じような比重になることを教えていただきました。小学校での外国語活動では「話す」「聞く」ことを中心に学習することが大切です。「Hi, friends!」での語彙数は350語程度あり、意味のあるやりとりを通じて慣れていく必要があります。また、かたまりのチャンツ(*)には効果があることや、ゲームを取り入れるときには、適切な動機付けが必要だと教えていただきました。校区連携では校種が下に行くほど、さりげなさが上手く、保育園、幼稚園の先生はそのスペシャリストであることや、中学校の先生からのコメントではと気づくことがたくさんあるので、校種間で連携することで外国語の活動が深まることについても教えていただきました。

*かたまりのチャンツ… I like~, How many~など【チャンツとは、一定のリズムに乗せて一定量の英語文章を歌のように発音させて、英語独特のリズムや抑揚を体得させるために行うもの。】